



未来の先生展
2017

18歳選挙権時代の主権者教育

～社会の問題を「自分ゴト化」する授業～

講演＋ワークショップ

開催日時 2017年 8月 26日(土) 12:30-14:00

場 所 武蔵野大学有明キャンパス 1号館3F 306教室

講演者 大畑 方人 (東京都立高島高等学校 主任教諭)

内容

2015年6月、選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が成立し、2016年7月の参議院議員通常選挙から18歳以上の者が投票できるようになりました。この「18歳選挙権時代」の幕開けに伴い、学校における主権者教育の重要性が叫ばれるようになり、様々な授業実践が積み重ねられています。また、次期学習指導要領では、現代社会の諸課題の解決に向けて主体的に社会に参画する力を育成することを目指して、高等学校公民科に「公共」が新設されます。こうした動きを踏まえて、本講演では高校における主権者教育の実践事例を紹介するとともに、政治的中立性を確保するための留意点などについて解説します。また、講演者が勤務校で実際に行っている授業の一部を、ワークショップ形式で体験していただきます。

ここに注目！

高校生にとって、政治や社会のことは他人事になってしまいがちです。こうした「無関心のバリア」を打ち破り、いかにして「自分ゴト化」させるのか。そのために、講演者の授業では3つの「C」を心がけています。1つめは「Catchy」であること。生徒の関心を引きつけ、楽しませるために、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れています。2つめは「Casual」であること。学校や地域社会など、生徒にとって身近で日常的な問題を取り上げるようにしています。3つめは「Cool」であること。生徒と年の近い大学生などに出席授業を依頼し、政治や社会について語ることがカッコいいと思えるような場づくりを目指しています。

講演者プロフィール



大畑 方人 (おおはた まさと) 東京都立高島高等学校 主任教諭

1977年、東京都目黒区生まれ。早稲田大学商学部及び政治経済学部政治学科卒。大学卒業後、半年間にわたってアジア諸国を放浪。私立中高の教員を経て、2013年度より現任校に勤務。「政治・経済」と「現代社会」を担当。「冷たい頭と熱い心」をモットーに、主権者教育やキャリア教育などに力を入れており、その取り組みは第11回マニフェスト大賞（マニフェスト大賞実行委員会主催、毎日新聞社・早稲田大学マニフェスト研究所共催、共同通信社後援）のシチズンシップ推進賞・優秀賞候補にノミネートされた。私生活では文京区本郷と千葉県鴨川市の二地域居住を実践しており、週末は南房総の里海・里山に囲まれて過ごす。

講演者から参加者へのメッセージ

主権者教育というと、社会科・公民科の先生だけの役割と思われがちですが、決してそんなことはありません。例えば、国語の授業で新聞の社説を読み比べたり、英語でトランプ米大統領のツイッターを読んだり、数学で内閣支持率の推移をグラフ化したりすることもできます。また、担任としてクラスを運営する際にも、民主的なものごとの決め方を学ばせるのは、とても大切なことです。そして、子どもたちの主権者としての意識を高めるには、家庭や地域社会との連携が欠かせません。ぜひ多くの皆様方と協力しながら、主権者教育を推進していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

